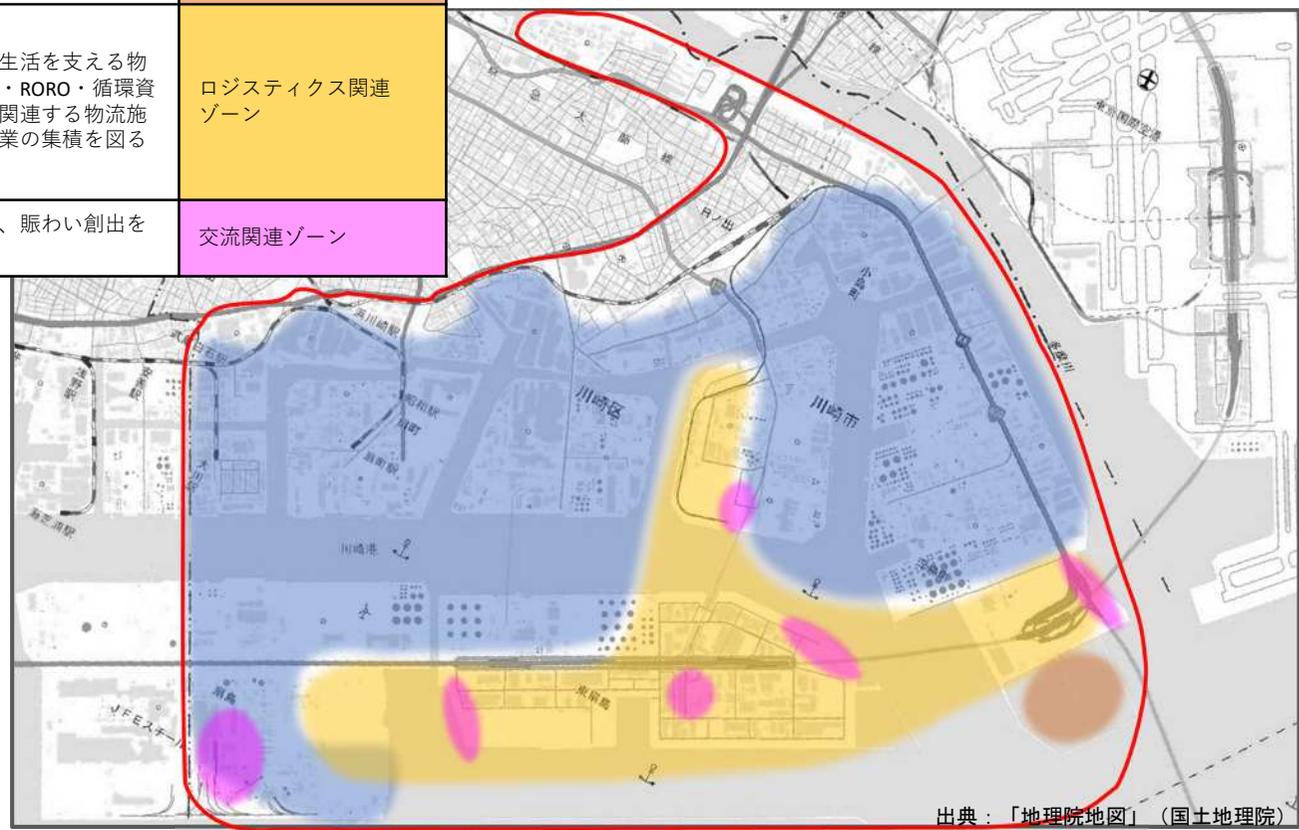


(1) 将来のゾーニング

川崎港の将来像を踏まえ、ゾーニングの考え方を整理し、川崎港長期構想における空間利用ゾーニングを設定しました。

川崎港の将来像	ゾーニングの考え方	ゾーニング
カーボンニュートラルな社会の形成を先導する港	カーボンニュートラルポートを形成する	カーボンニュートラルポート形成ゾーン
	製造や石油化学、エネルギー、リサイクル機能等が集積するエリアを中心としたカーボンニュートラルコンビナートの形成を図る	生産・エネルギーゾーン
持続可能な生産・消費活動を支える港	市内から発生する廃棄物等を受け入れる	廃棄物処理ゾーン
強みをいかし高度なサプライチェーンを支える港	背後圏の安定的な産業・生活を支える物流拠点として、コンテナ・RORO・循環資源を取扱うターミナルや関連する物流施設などロジスティクス産業の集積を図る	ロジスティクス関連ゾーン
災害等への備えが充実している港		
誰もが働きたい・訪れたい港	交流拠点施設等が立地し、賑わい創出を図る	交流関連ゾーン



- CNP形成ゾーン
- 生産・エネルギー関連ゾーン
- ロジスティクス関連ゾーン
- 交流関連ゾーン
- 廃棄物処理ゾーン

出典：「地理院地図」（国土地理院）

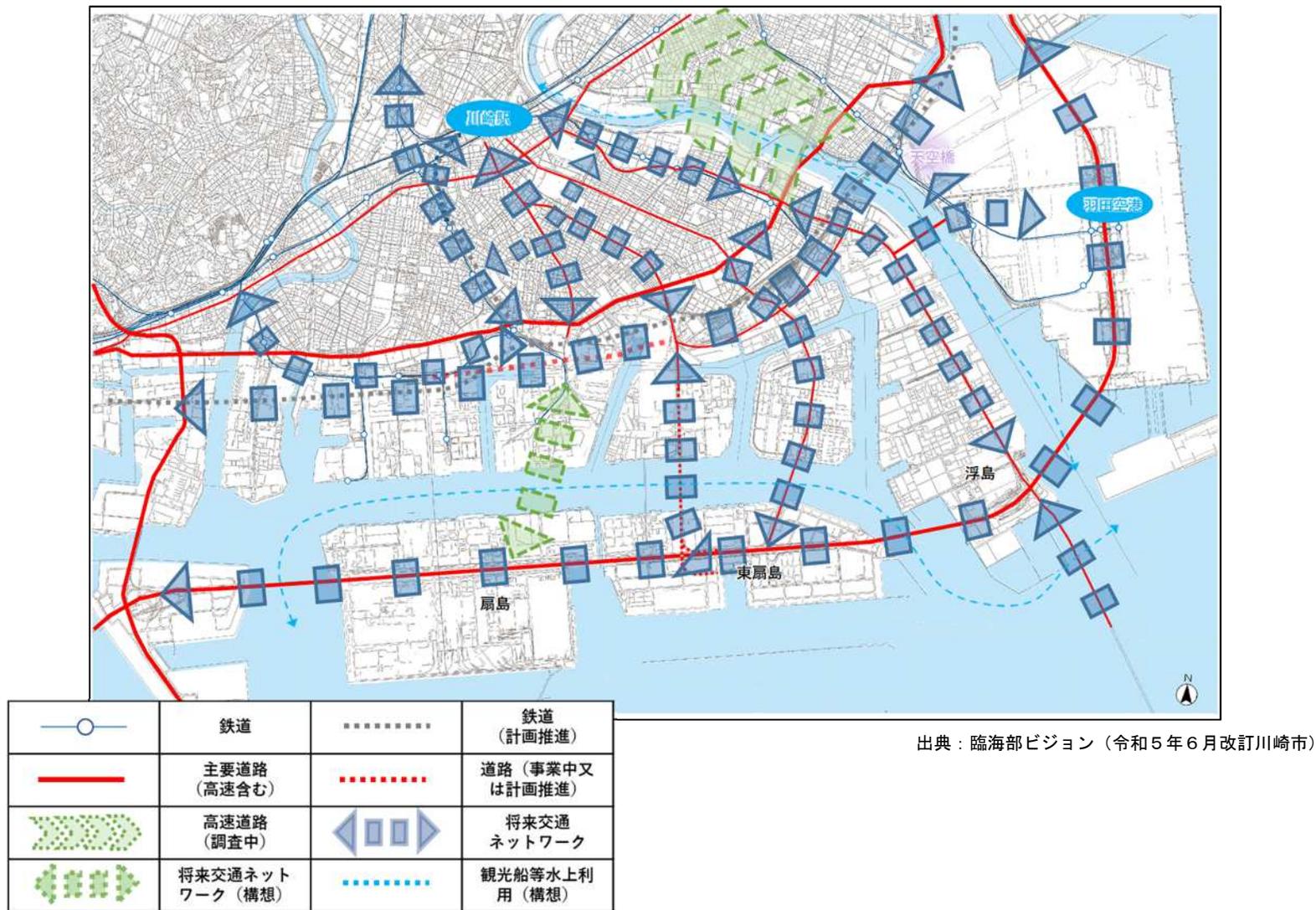
▲港湾空間利用ゾーニング図

※扇島地区等土地利用方針で示される扇島地区の先導エリア以外のゾーニングについては、今後、インフラ整備状況、既存構造物の撤去の容易性、社会情勢の変化などを踏まえ、国や地権者などのステークホルダーと協議・調整を行い深度化を図る

将来のゾーニング等について

(2) 将来の交通ネットワーク

ロジスティクス機能や就労者や市民等の交通アクセス、災害や事故への対応力の強化などを進めるため、以下の交通ネットワークの形成を目指します。



▲将来の交通ネットワーク図